

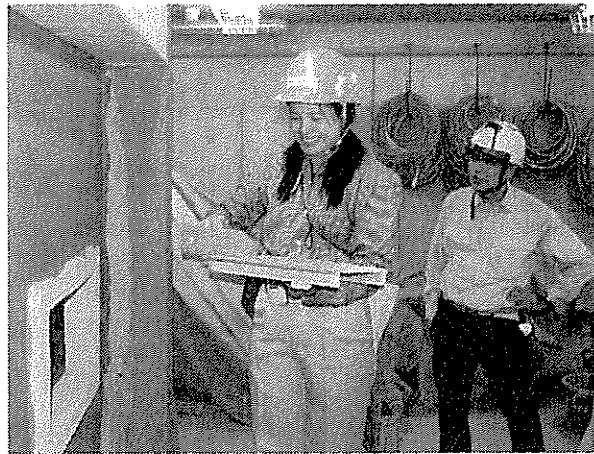


2017年 9月16日 土曜日
(平成29年)

日本の建築技術学ぶ

田大 ミャンマーから指導者
ものつくり 行

水準の高い日本の建築技術を学び、ミャンマーの建築技術者育成に生かそうと、ミャンマーから招かれた技術指導者3人が16日まで、行田市のものつくり大学で研修を受けている。



レンガ・左官コースで学ぶシンマーウインさん(左) 行田市前谷のものつくり大学

研修は国際協力機構(JICA) 依託のミャンマーを対象とした建築技術者育成事業の一環。同大学は、研修の教育内容の企画、運営、指導などで協力している。
ミャンマーは、2011年

以降の民主化を背景に、インフラ整備、住宅、ホテルなどの建設需要が急増している。だが、それに対応できる建築技術者や建築技能教育機関の数が圧倒的に少ないという。このため、建築技能者の養成が急務となっている。

3人はミャンマー労働省職員2人とともに来日。同大で鉄筋・型枠、レンガ・左官、木造の三つのコースで実習を受ける。指導は同大の三原斉技能工芸学部教授を統括者に、建設学科非常勤講師らが担当している。

鉄筋コースで学ぶアウンコラテさんは「日本の技術を身に付けて、ミャンマーの建築技術に取り入れたい」と意欲を見せる。レンガ・左官の研修を受けている女性のシンマーウインさんは、「若い人たちに日本の技術を継承した

い」と話していた。

3人は帰国後、建築技能者の育成に当たる。(佐藤達哉)